

健苗の適期田植え、適正な水管理で品質確保

～活着後は浅水管理で初期生育を確保しましょう～

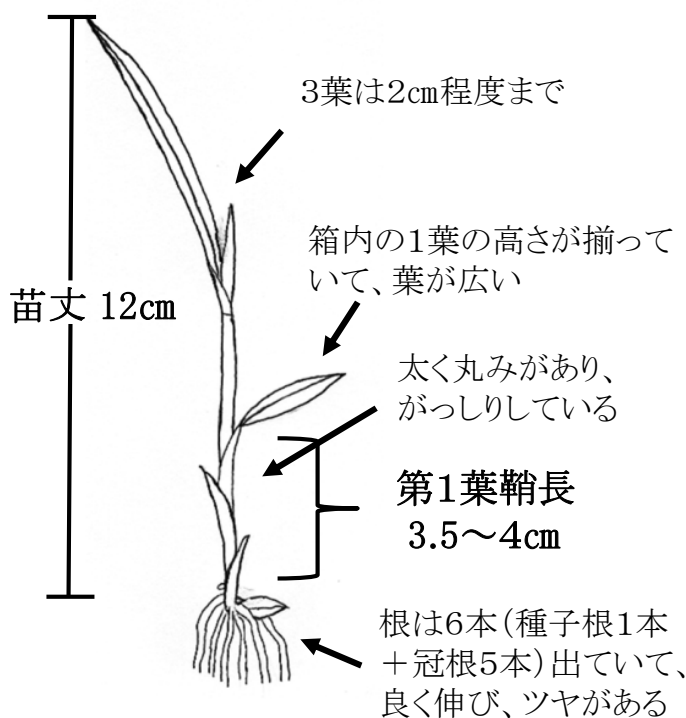
1 適正な温度管理で健苗を仕上げましょう

- 向こう1か月(4月25日～5月24日)の気温は高い見込み。
(4月23日発表、新潟地方気象台1か月予報)
- ハウス内を換気して日中の高温に注意し、ヤケ苗や徒長苗を防止しましょう。
- 2.0～2.2葉程度の健苗を田植えできるように作業の準備をしましょう。
- 高密度播種は、老化しやすく田植え適期が短いため、適期を逃さないように注意しましょう。

【硬化期間中の管理】

温度管理	<p>昼 15～20℃ 夜 10℃以上</p> <p>○ハウスを十分に開け、外気に慣らす。 ※ムレ苗を防ぐため<u>8℃以下の低温</u>に遭わないように管理する。</p>
水管理	<p>○灌水は、前半は1日1回、後半は乾き具合を見て1日2回をめやすに行う。</p> <p>※夕方の灌水は根張りが不良になるため避ける。</p>

2.2葉の理想苗(稚苗)



2 田植え前に弁当肥を施用しましょう

- 活着を早めるため、田植え4～5日前に窒素成分で1～2g/箱程度の弁当肥を施用しましょう。
- 肥料焼けを防ぐため、弁当肥の施用後は必ずかん水をしましょう。
- 軟弱・徒長苗は、障害が発生する場合があるので施用を控えましょう。

3 適期に田植えをしましょう

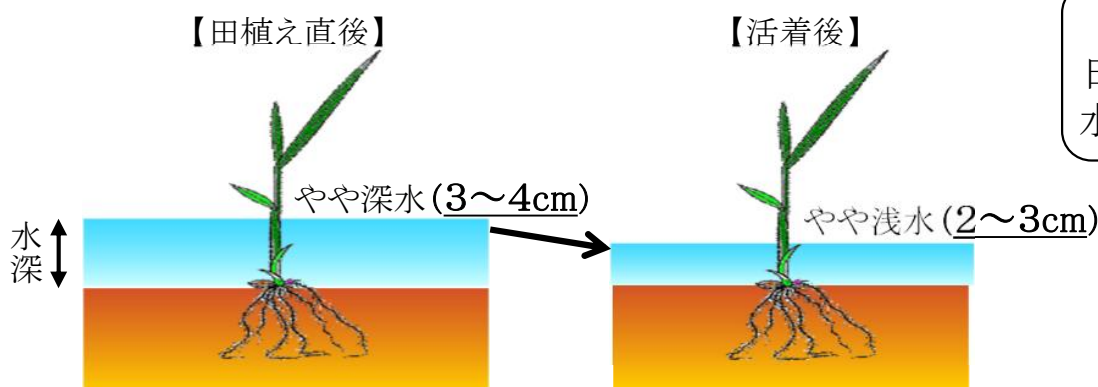
- 発根・活着を良好にするため、田植えは好天日に行いましょう。
- コシヒカリの田植えは、5月中下旬を基本とし、田植え時期の分散で高温登熟による品質低下のリスクを低減しましょう。
- 栽植密度は50～60株/坪とし、ほ場の地力によって茎数不足とならないよう栽植密度を調整しましょう。
- 分けつの発生を促すため、植え付け本数は3～4本、植付け深さは2～3cmの浅植えで丁寧な田植え作業を心がけましょう。

全量基肥肥料のプラスチック殻がほ場から流出しないよう、代かきは浅水で行い、田植え前の強制落水はやめましょう。
やむを得ず落水する場合は、捕集するためのネットを水尻に設置しましょう。



4 田植え後の水管理で初期生育を促進しましょう

- 田植え後活着するまでは3～4cmのやや深水で保温的な水管理を行い、植え傷みを防ぎましょう。
- 活着後は2～3cmのやや浅水にして水温上昇を図り、分けつの発生を促しましょう。
- ワキが発生した場合は、根腐れを防ぐため、水の更新や夜間落水を行いましょう。



かん水は早朝に行い、日中は水口を閉じて、水温を上げましょう



【QRコードを読み取り稲作情報を確認しよう】

JA魚沼 北魚沼地区
営農情報 (LINE)
はこちら →



魚沼農業普及指導
センターHP稲作情報
はこちら →



お問い合わせ先

JA魚沼北魚沼基幹営農センター
025-793-1770
魚沼農業普及指導センター
025-792-1309

春の農作業安全運動実施中！スローガン「見直そう！作業手順と安全意識」

空気が乾燥し、山火事が発生しやすい時期です。「山火事防止！野焼きはダメ！」